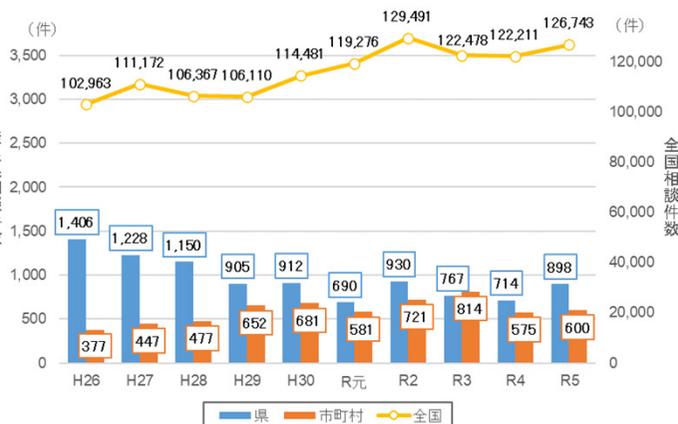


1. DV相談状況

- ・全国の相談件数は令和3年度から減少傾向であったものの反転し、令和5年度は令和4年度と比較して増加 (①)
- ・県が受け付けた令和5年度のDV相談件数は、令和4年度と比較して、25.8%増加 (中央子ども家庭相談センター8%増加、高田子ども家庭相談センター44%増加、女性センター9%増加) (②)
- ・警察におけるDV相談等件数は、全国では増加を続けており、奈良県では平成27年度以降減少傾向であったが、令和4年度より増加傾向 (③)

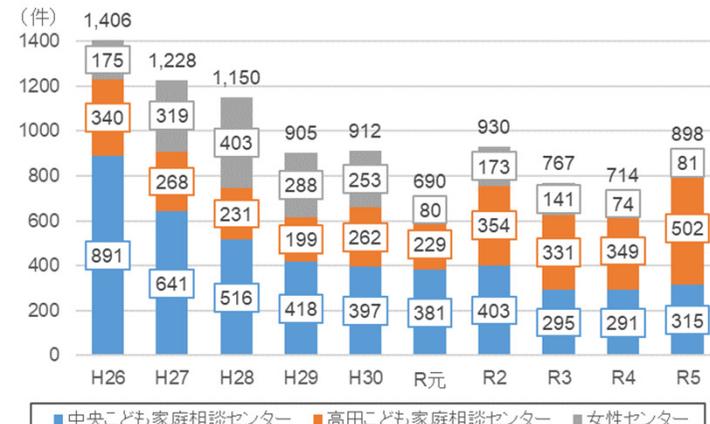
① DV相談件数の推移 (全国、県、市町村)

・全国の相談件数はR3年度から減少傾向であったものの反転し、R5年度はR4年度と比較して増加した。
 ※SNSを活用したDV相談+(プラス)による相談を除く。



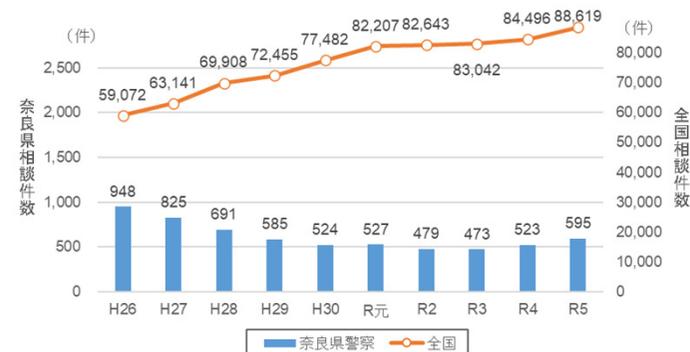
② 機関別DV相談件数 (県)

・奈良県における令和5年度の相談受付件数は、898件であり、前年度に比べ、184件 (25.8%) 増加した。



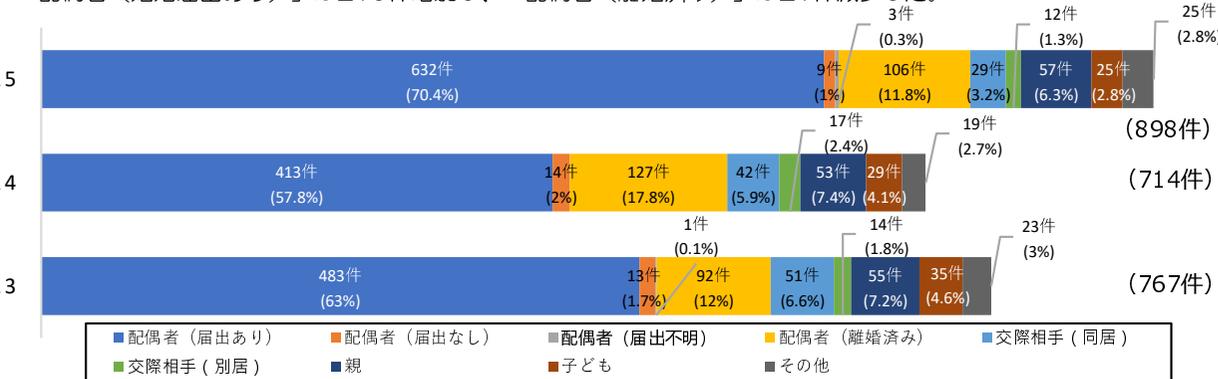
③ 警察におけるDV相談等件数の推移 (全国、県)

・奈良県警察における令和5年の相談等件数は、595件であり、前年に比べ、72件 (13.8%) 増加した。
 ・警察庁 (全国警察相談等件数の合計) における令和5年の相談等件数は、88,619件であり、前年に比べ、4,123件 (4.9%) 増加した。 ※警察における相談件数は、毎年1月～12月の件数



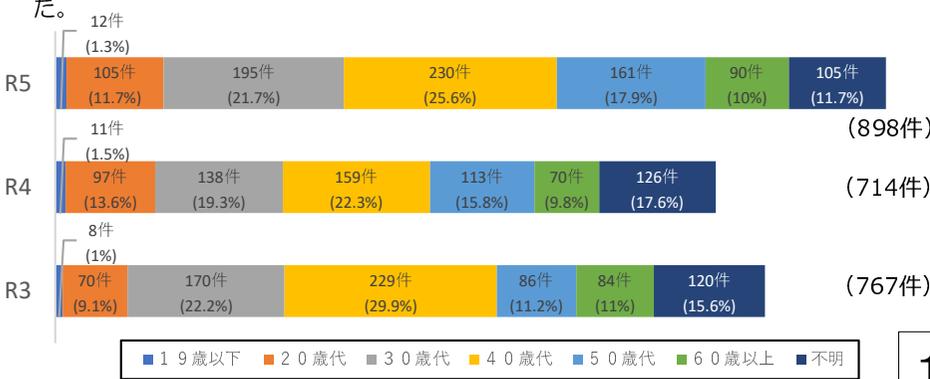
④ 加害者との関係 (県)

・令和5年度の相談の主なDV行為者は、「配偶者 (婚姻届出あり)」が632件 (70.4%) で最も多く、次いで「配偶者 (離婚済み)」が106件 (11.8%) であり、次いで「親」が57件 (6.3%)。前年度と比較すると、「配偶者 (婚姻届出あり)」が219件増加し、「配偶者 (離婚済み)」が21件減少した。



⑤ 相談者の年代 (県)

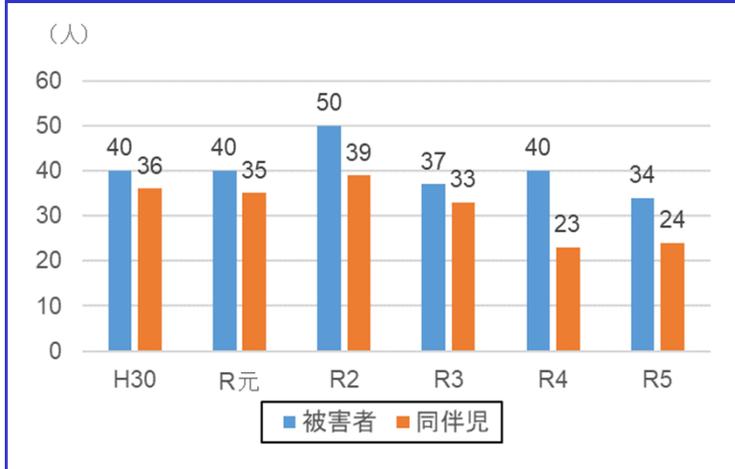
・令和5年度の相談の年齢別件数は「40歳代」が230件 (25.6%) で最も多く、次いで「30歳代」が195件 (21.7%) と合計で約5割を占めるが、すべての年代からの相談がある。前年度と比較すると、「40歳代」が71件増加、「不明」が21件減少した。



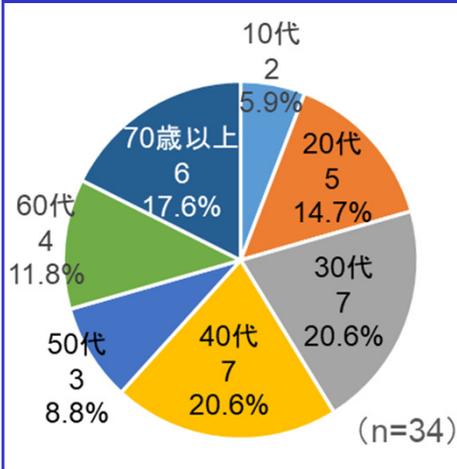
2. 一時保護（被害者）の状況（令和5年度にDV被害による一時保護を行った34名について、現状の把握を行った）

- 【現状】・DVによる一時保護は年代を問わず発生。「身体的暴力」が55.9%（前年度比26.6%減少）、「精神的暴力」が41.2%（前年度比26.2%増加）（②、③）
- ・暴力が開始されて5年未満で一時保護される方が47.1%（前年度比27.9%減少）で最も多いが、30年以上など長期間に渡る被害を受けている方もいる（④）
 - ・一時保護の受付経路は「警察」が25件（73.5%）で最も多く、次いで「民生児童委員・児相・NPO等」が4件（11.8%）となっている。（⑤）
 - ・一時保護所退所後は、「実家・親せき宅」に身を寄せる方が11件（32.4%）で最も多く、次いで「帰宅」が8件（23.5%）となっている（⑥）
 - ・被害者のうち、「就業」による収入があるのは8名（23.5%）であり、無収入が18名（52.9%）となっている（⑦）
 - ・一時保護された方の約2割は、過去に相談歴がない（⑧）

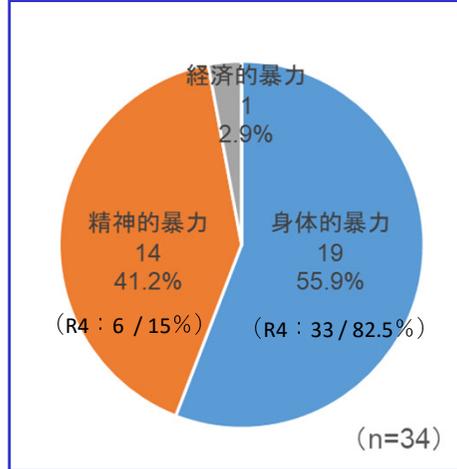
①一時保護者の推移



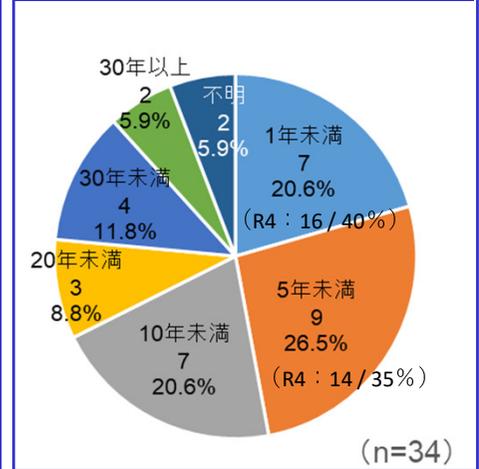
②被害者の年齢



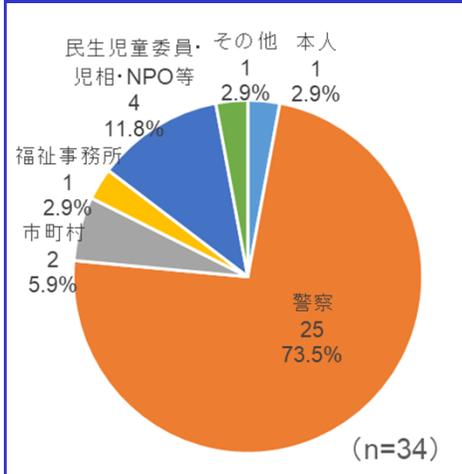
③暴力の種類



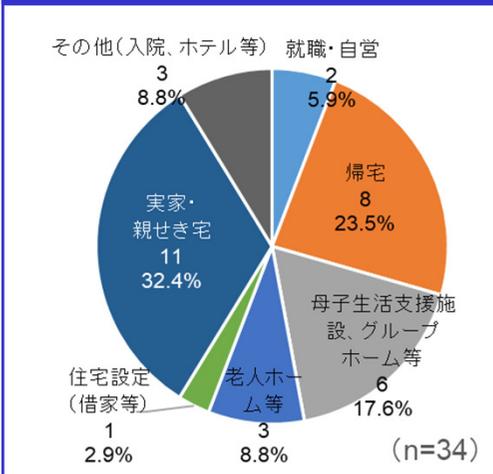
④暴力が開始されてからの期間



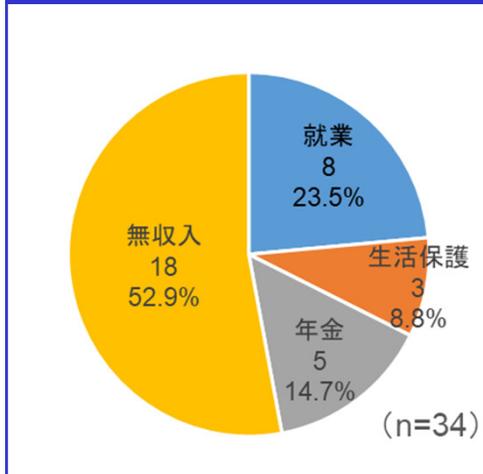
⑤一時保護の受付経路



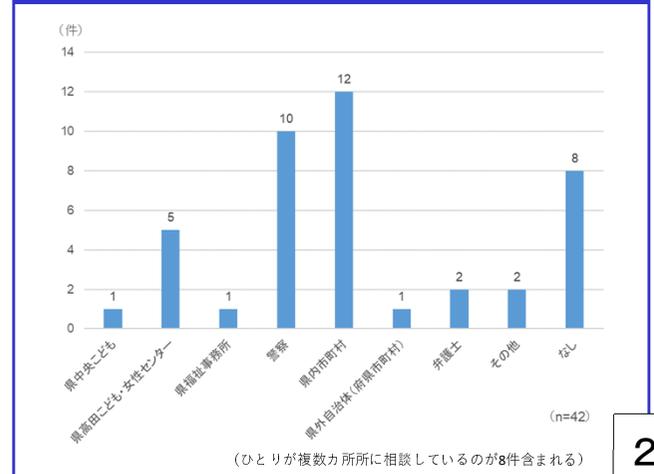
⑥退所先



⑦被害者の主な収入



⑧過去の相談歴

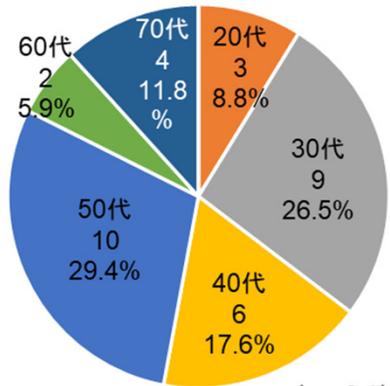


3. 一時保護（加害者）の状況（令和5年度に、一時保護を行った34名より加害者の情報を聞き取り、現状の把握を行った）

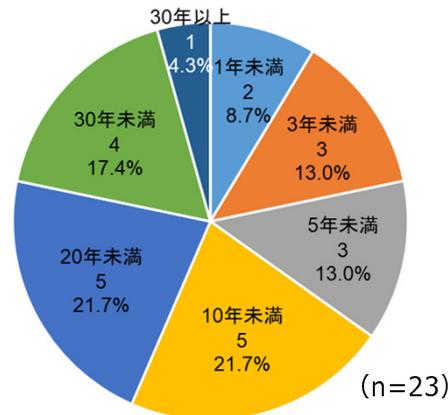
【現状】・加害者の年代は被害者の状況と同様に幅広く、年代による大きな偏りはない（①）

- ・被害者と知り合ってからDVに至る年数は、長さ問わず発生しており、知り合ってから30年以上経過している人が加害者になることもある（②）
- ・加害者の半数が同居している配偶者であり、内縁関係や交際相手などもあわせ、加害者の9割以上が被害者と同居している（③）
- ・加害者の7割以上は就業しているが、年金受給者と生活保護受給者はそれぞれ約1割を占める（④）
- ・加害者による子への虐待が約8割あり、そのうち面前DVが約4割で最も多い（⑤）

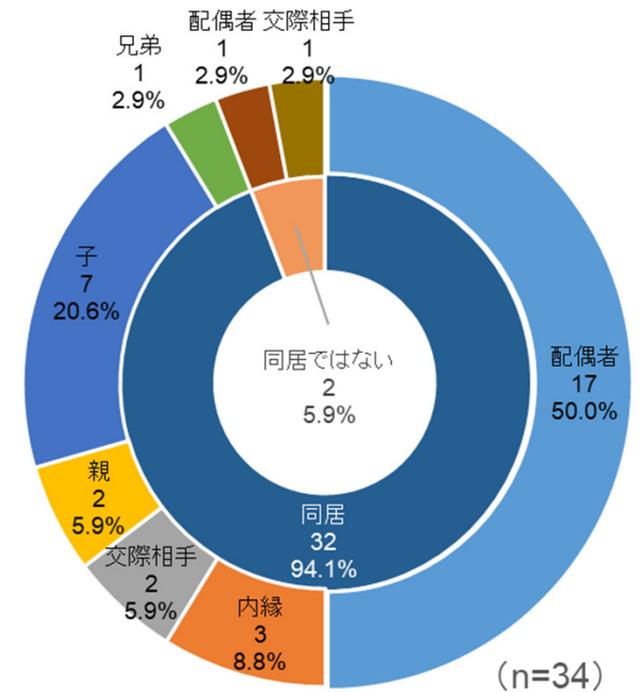
①加害者の年齢



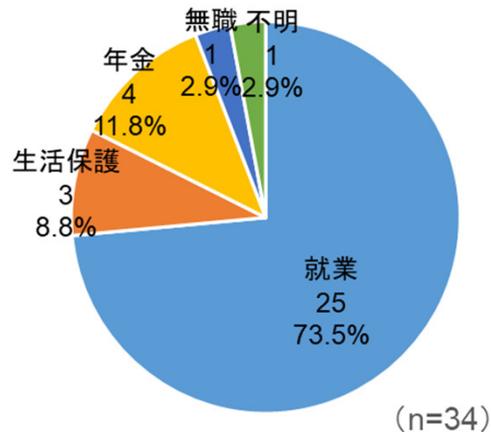
②被害者と知り合ってから年数
(親、子ども、親族を除く)



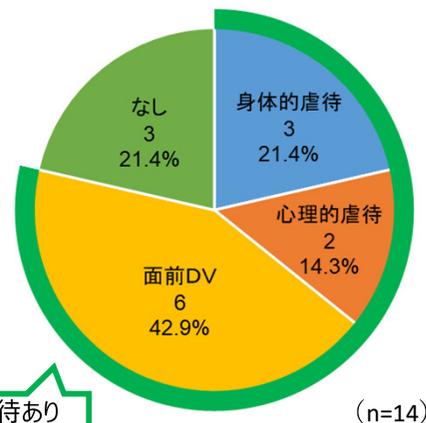
③被害者との関係・同居の有無



④加害者の就業状況



⑤加害者から子への虐待



虐待あり
11
78.6%

※18歳未満の子がいる被害者（親）の人数
※ひとりで複数種の虐待があるのが3人3件
含まれる